



知らなかった建物が描かれている。それは菱形基線の北端点と北端附属点を結ぶ線上に細長い建物があることである。現役の事務系最年長であり、昭和 38 年から天文台にいるという山下芳子氏によれば、桜並木の北側に「うなぎの寝床」と呼ばれた建物があった記憶があるという。昭和 30 年頃、天文台にお勤めであった方はまだご存命の方も多から尋ねてみようと思う。図 2 が提供された地図の全図である。大沢台小学校がまだ無いようだ。

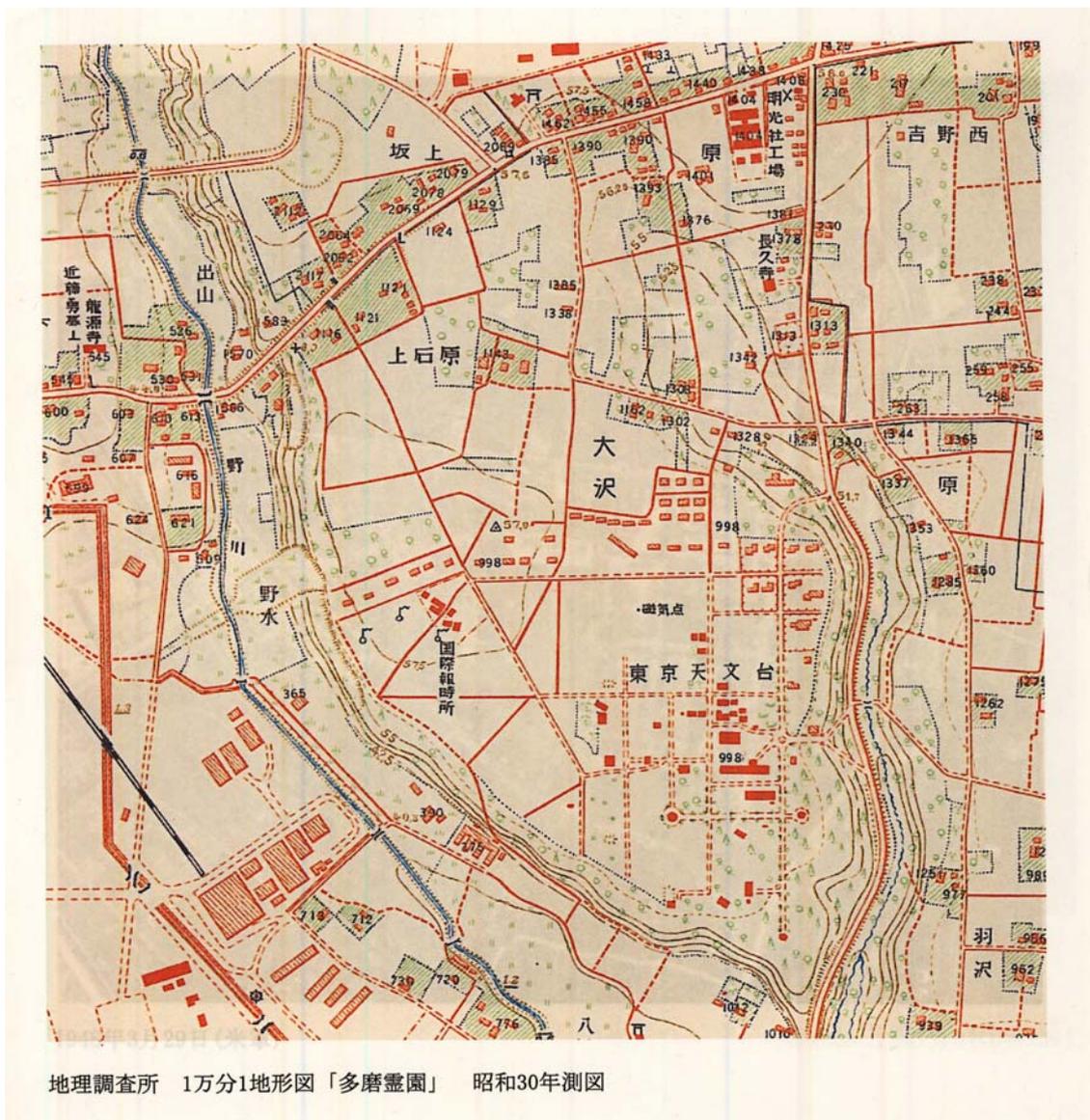


図 2 測量史研究グループから入手した昭和 30 年発行の天文台付近の地図

この地図には、現在の開発実験棟西側にある大きな「もみの木」のすぐそばに立っていた「東大理学部人類学教室三鷹分室」の建物、卯西儀ドーム、30cm 望遠鏡ドームが記載されていない。また天文台構内にあった 60m 鉄塔と思われる 3 本の塔の記号がある。これは戦時中、陸軍の飛行機がこの架線に衝突し墜落した事から、帝国陸軍の命令で撤去されたと読んだ事のある鉄塔で昭和 30 年にあったはずが無く、官舎も 1 件足りないなど矛盾も多々ある地図である。

今回提供された写真にはっきり「磁気点」標石の文字が読めるものがあった。写真 1 がそれであり、この標石は現在の重力波観測棟玄関前辺りにあったものと思えるが、今はその痕跡も無い。



写真 1 「磁気点」の磁気の文字がはっきり読める標石

この標石の存在を気に掛ける天文台職員は誰もいなかったようである。測量史研究グループから 1994 年 1 月に撮影された磁気点現場の写真 2 と、筆者が撮影した 2009 年 1 月の写真 3 を対比して掲載しておく。



写真 3 1994 年 1 月には「磁気点」があった証拠写真



写真3 2009年1月に写真2とほぼ同じ場所を撮影した写真

この磁気点の標石について、重力波グループにいた山崎氏に聞いたところ、グループの誰も「磁気点」があったという認識はなかったと言いき、多分パワーシャベルで掘り起こされ遺棄されたであろうと言うのである。この工事の残土は天文台の外には運び出されていないはずで、官舎跡のどこかの残土野中に眠っているのであろう。お気づきの方がいたら情報を寄せていただきたい。このことについては、第28回キャンパス委員会で話題にして、このような歴史的に貴重な標石などの扱いについて注意を喚起しておいた。